

2019年度決算報告

学校法人京都橘学園の2019年度決算は、2020年5月25日の理事会及び評議員会で承認されました。

経常的な収入である教育活動収入、および教育活動外収入は、前年度と比較して3億5,670万円の増加となりました。収入の大部分は、大学・中高・こども園の学生生徒等納付金で、経常収入の80.8%を占め、大学では、収容定員の変更等による在籍者数の伸び、中学・高等学校においては新入生の伸びによる生徒数の増加により、前年度比較で104.3%となっています。入学検定料が大半を占める手数料収入では、大学における志願者の減少により、前年度比較で91.6%と減額となりました。寄付金収入では、医療系学科を中心とした研究目的の奨学寄付金に伴い、前年比3,429万円の増額となっております。国及び京都府等から交付される補助金の事業活動収入に占める割合は12.1%で、経常費・運営費補助金は前年度対比で95.7%と圧縮率等の関係から減少となり、こども園の補助金である施設型給付費は2019年10月から始まった利用者負担額等無償化に伴い、前年比4,304万円の増額となり、補助金全体では前年度とほぼ同額となっています。

支出面では、経常的な支出である教育活動支出、および教育活動外支出が前年度より5億1,225万円増加しました。人件費では、収容定員増加等による教職員の採用と、こども園の保育体制強化等による採用増により前年度比較で107.7%、教育研究経費では、前年度は新学科(臨床検査学科・作業療法学科)開設、および、たちばな大路こども園の開園等があり増加しましたが、本年度は前年度比較で101.5%と、ほぼ前年どおりとなりました。一方、管理経費では、2021年4月に開設予定の3学部4学科に対する広報費等の増加に伴い前年度比較で125.0%の1億6,550万円と増額となりました。

経常収支差額は前年より収入・支出とも増加しましたが、例年と同水準で推移し、教育研究活動以外の特別収支を加算した基本金組入前当年度収支差額では12億1,284万円を計上しております。

基本金組入については、第1号基本金において、グラウンド整備計画にもとづき実施された大学隣接地の購入による組入れ、既存棟改修工事をはじめとする施設設備面の充実による組入れと、2021年3月竣工予定の新教室・管理棟の工事着手に伴う組入を行っております。なお、新教室・管理棟の組入れについては、第2号基本金計画書にもとづき実施され、2019年度までに計画的に組入れられた第2号基本金を第1号基本金に振り替えました。これに伴い、第2号基本金は全額取り崩しとなっております。第3号基本金では、奨学基金への寄付に伴って増額となっております。これにより、2019年度は3億2,686万円の収入超過となり、繰越支出超過額は25億7,664万円となりました。

本学園では2015年から始まった第1次マスタープラン計画を点検・評価し、2019年度から第2次マスタープランをスタートさせました。このマスタープランのもと2019年度は、大学において、2021年4月に3学部4学科の開設を計画し、中学・高等学校においては、第1・第2体育館空調設備更新、校舎では全教室・特別教室にて無線LAN環境を整えました。たちばな大路こども園では、教育・保育の質向上に向けた保育士体制の整備・強化を行いました。

私立学園を取り巻く状況は、令和元年度版今日の私学財政(日本私学振興・共済事業団)によると、事業活動収支差額がマイナス(帰属的な収入で消費的な支出が賄えない)の学園は全国で大学法人549大学法人中206大学法人(37.5%)となっております。こうした状況にあって、本学園の経営状況を示す事業活動収支差額比率は13.2%と、全国の大学法人平均4.6%(平成30年度)より高い水準を保っており、現状においては、依然安定かつ健全な経営状態であるといえます。